

# 6割が「今後道内に」

東日本大震災の影響で道営住宅や札幌市営住宅で避難生活を送る被災者の6割が「今後も道内に」とまじりたい」と考えていることが、森傑北大大学院工学研究院教授らの調査で明らかになった。避難者からは「生活環境が充実している」などの理由で、定住を希望している避難者も多い。一方で仕事や収入の面で不安を訴える人も多く、定住に向けては就業支援などが重要な課題となる。

## 道住・札幌市住の震災避難者

調査は、日本建築学会 この3県で95・6%を占  
道支部と建築計画専門委 道支店と建築計画専門委  
員会、道立北方建築総合 員会、道立北方建築総合  
研究所、札幌市などの協 員会、道立北方建築総合  
力で実施。6月から8月 員会、道立北方建築総合  
にかけて道営住宅と札幌 研究所、札幌市などの協  
市営住宅に避難している 力で実施。6月から8月  
156人に調査用紙を配 にかけて道営住宅と札幌  
布し、91人から回答を得 市営住宅に避難している  
た。 156人に調査用紙を配  
布し、91人から回答を得  
た。

東各県に次ぐ人数となっ  
ている。

## 北大大学院の 森教授ら調査

北海道に避難してきた  
理由について、「本道(札  
幌市)に親戚がいる」が  
最も多く21・6%、次い  
で「本道(札幌市)に家  
族の一部が住んでいる」  
の14・7%など、避難者  
の14・7%など、避難者  
が、親戚や家族を頼って

## 無職7割、課題は就業支援

都圏に次ぐ避難者が多い  
地域。被災者の意向を聞  
き、今後の避難の受け入  
れの在り方や、さらには  
定住に向けた施策が必要  
となってくる」と話して  
いる。

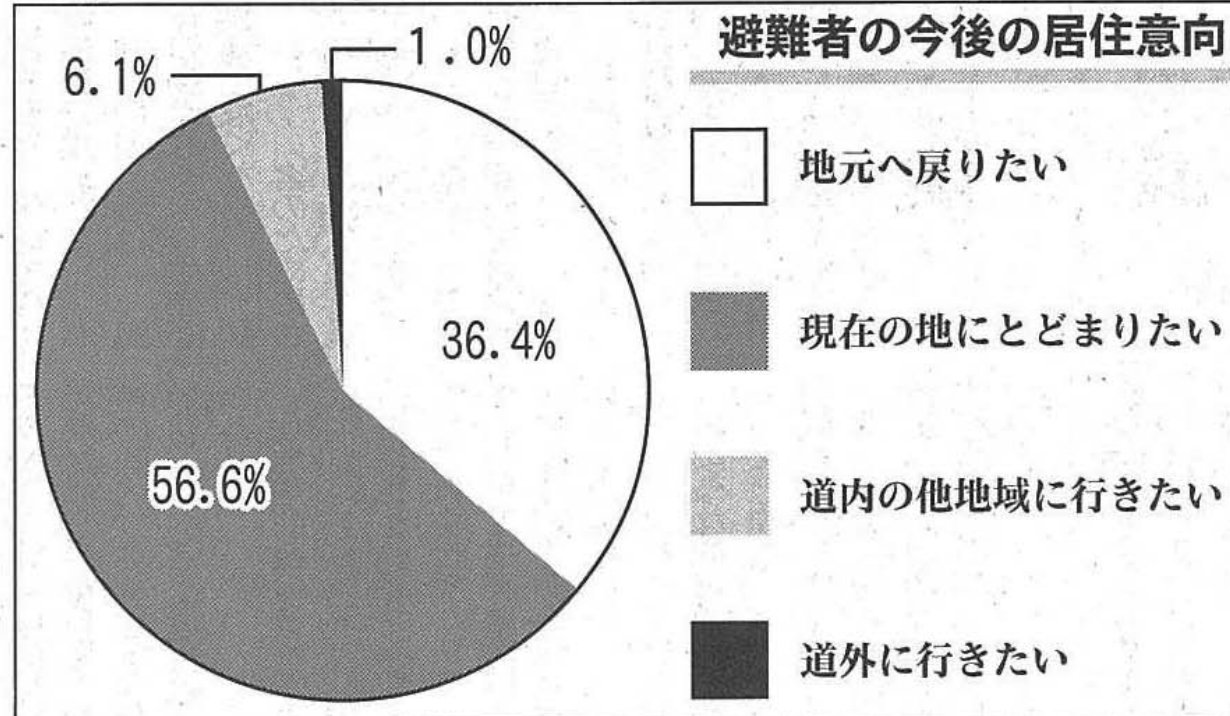
本道へ避難してきた実態  
が分かった。  
一方で、「以前、北海  
道(札幌市)に住んでい

を望んで避難してきた人  
も少なくない。

今後の居住の意向は  
「地元へ戻りたい」とし  
たのが36・4%だった一  
方、現在地と道内他地域  
を合わせて「道内に」とど  
まりたい」と答えたのが  
62・7%に上る。主な理  
由として「交通の便、買  
い物の便など不自由がな  
い」といった指摘や「住  
みやすい」など生活環境  
の良さを挙げている。た  
だ「仕事と収入が安定す  
れば北海道に定住した  
い」など、雇用や生活の  
不安解消など、条件が整  
えば定住を希望するとの  
避難者も少なくない。

現在の就業状況を尋ね  
たところ、74・7%が無職  
と答え、避難者の就業支  
援が大きな課題となっ  
ている。働いていると答え  
た人のうち、正規雇用な  
のは42・9%にとどまり、  
たことがある」が11・8  
%、「北海道(札幌市)  
の住環境が良い」が9・  
8%など、本道での生活

避難者の今後の居留意向



避難者の不安定な雇用実  
態も明らかになった。  
森教授は「北海道は首